



参考資料

VMware View™ 5.1 :

ポスト PC 時代に向け、さらに使いやすく進化したデスクトップを提供

概要 :

VMware View™ 5.1 は、ポスト PC 時代に向けて進化したデスクトップソリューションを提供し、ビジネスの俊敏性、生産性、接続性の向上に取り組む IT 部門を支援します。

VMware View 5 で実現するデスクトップ管理の統合および自動化によって、1 つのコンソールで数万の仮想デスクトップをスケーラブルに管理することが可能となります。VMware View は、デスクトップ環境の可用性、信頼性、およびセキュリティを従来の PC 以上のレベルにまで高めながら、運用コストを最大で 50%削減します。¹

VMware View 5.1 は、業界で最も広く導入されている仮想化プラットフォームである VMware vSphere® 上に構築されており、大規模な環境において IT 管理をシンプルにし、仮想デスクトップ インフラの総所有コスト (TCO) を削減しながら、業界最高レベルのエンド ユーザ エクスペリエンスを実現します。

VMware View™ 5.1 の機能とメリット

VMware View 5.1 には、次のような機能拡張と新機能が搭載されています。

- **VMware View Storage Accelerator** : VMware View Storage Accelerator (Content Based Read Cache から名称変更) は、仮想デスクトップ イメージの読み取り時に共通のイメージ ブロックをキャッシュすることでストレージの負荷を最適化し、パフォーマンスを改善できるため、VMware View の展開における TCO の削減に効果を発揮します。
- **VMware View Composer Array Integration (VCAI)** : VMware View 5.1 で Tec Preview として提供される VCAI は、ストレージ アレイのネイティブ クローニング機能を利用して、VMware View 環境でのストレージの運用負荷を軽減します。これにより、プロビジョニング速度と View Composer の管理性が向上でき、ストレージ機能を利用したいと考えるお客様に追加の選択肢が提供されます。
- **VMware View Persona Management** : VMware View Persona Management は、VMware View 5.1 で物理デスクトップを管理できるようになります。これにより、IT 部門ではすべての Windows デバイスのユーザ設定を集中管理できるため、物理デスクトップから仮想デスクトップへの移行を円滑に実行できます。
- **VMware vCenter™ Operations for VMware View** : システム管理者は、VMware View の新しいアドオンとして提供される VMware vCenter™ Operations for VMware View を使用して、仮想デスクトップのパフォーマンス状況を一元的に把握できます。これにより、問題点の迅速な特定と解決、リソース使用率の最適化、また潜在的な問題に対してリアルタイムに予防策を講じることが可能です。
- **VMware View Administrator の機能拡張**: 管理者用のユーザ インターフェイスのパフォーマンスが強化されることにより、数万台規模の大規模なデスクトップ環境の応答時間が短縮されます。VMware View 5.1 では、事前に作成される AD アカウントを使用するデスクトップのプロビジョニング プロセスがより簡素化され、コンプライアンス ポリシーが強化されます。このほか、接続場所を編集可能なディスプレイブルディスク機能が追加されています。
- **RADIUS のサポート** : RADIUS をサポートする VMware View 5.1 は、二要素認証の導入を検討している企業に新たな選択肢を提供します。また、既存の選択肢との互換性も維持しています。

¹ IDC Research 社、「Quantifying the Business Value of VMware View」

- **新しいクライアントのサポート**：ユーザは Mac、Windows、Linux デスクトップ向けの最新クライアント、シンクライアントまたはゼロクライアント、あるいは iPad、Android、Amazon Kindle Fire タブレットを使用して、モバイルや固定回線の各種エンドポイントから VMware View のデスクトップにアクセスできるようになります。また、エンドユーザ環境から接続するネットワークに対応した VMware View 5.1 with PCoIP®は、LAN または WAN 経由で質が高く、顧客に合ったデスクトップエクスペリエンスを提供します。
- **VMware View Media Services の機能拡張**：VMware View 5.1 Local Mode を使用すると、マルチモニタがサポートされ、USB デバイスに対する互換性が拡張されます。VMware View の仮想デスクトップにシームレスに接続できる周辺装置の種類が増えるため、ユーザエクスペリエンスがさらに改善されます。
- **VMware View Administrator の多言語サポート**：管理者向け UI のグローバリゼーションとローカリゼーションを通じて、英語以外の言語を使用している IT 部門に対してより快適なユーザエクスペリエンスを提供し、さらに多くの市場に対応します。サポート言語はフランス語、ドイツ語、日本語、韓国語、簡体中国語の予定です。

■ **VMware View に関する詳細はこちらへ**
<http://www.vmware.com/jp/products/view/>

■ **ご購入方法について**

VMware View 5.1 は 2012 年第 2 四半期に販売を開始する予定です。

詳細は国内販売パートナーにお問い合わせ下さい。

パートナーに関する情報は <http://www.vmware.com/jp/partners/> をご覧ください。

■ **価格について**

VMware View は同時接続ユーザあたり 16,000 円（市場予想価格）より提供されます。本価格にはサポートおよびサブスクリプションは含まれません。VMware View の既存顧客は無償のアップグレードを通じ、これらのアップデートを利用可能です。

VMware vCenter Operations for View は同時接続ユーザあたり 12,500 円（市場予想価格）より提供されます。本価格にはサポートおよびサブスクリプションは含まれません。

VMware, Inc. エンドユーザ コンピューティング製品担当副社長 ヴィットリオ・ヴィアレngo (Vittorio Viarengo) コメント：

「VMware は、企業が市場と競争に適応する上で、顧客の要望への素早い対応が不可欠であることを十分理解しています。ユーザが利用するコンピューティング環境も、こうした対応力を備えるべきです。VMware View 5.1 は、企業が求める俊敏性を提供できるよう最適化されています。オンライン、オフライン、ローミングといった接続方法にかかわらず、また使われるプラットフォームの種類にも左右されることがないため、当社は最高のエンドユーザエクスペリエンスを実現するために全力を尽くすことができます」

VMware 社について

VMware (本社：カリフォルニア州パロアルト) は、クラウド時代においてビジネスの活性化を支援する仮想化ソリューションおよびクラウドインフラソリューションを提供いたします。VMware は、お客様が IT リソースの構築・提供・利用を、発展的かつ企業特有のビジネスニーズ対応した方法で、移行できるよう支援します。VMware は、35 万社を超えるお客様、および 5 万社を超えるパートナーを有し、全世界にオフィスを展開するグローバル企業です。当社の 2011 年度の売上高は、37 億 7,000 万ドルです。VMware の詳細は www.vmware.com/jp をご覧ください。

VMware、VMware ThinApp、VMware vCenter、VMware View、VMware vShield Endpoint、VMware vSphere は、VMware, Inc.の米国および各国での商標または登録商標です。他のすべての名称ならびに商標は、それぞれの企業の商標または登録商標です。

将来予想に関する記述

本プレスリリースには、過去または現在の事実に関するもの以外に、将来予想に関する記述 (forward-looking statement) が含まれており、1995 年米国私募証券訴訟改革法 (Private Securities Litigation Reform Act of 1995) の「セーフハーバ」条項 (the safe harbor provisions) に準拠しています。これらの将来予想に関する記述は、VMware View 5.1 にて提供される機能、それらの製品の入手性、将来の IT の進化への期待、VMware 製品の役割およびそれら製品がユーザにもたらすメリットなどの VMware の未来の技術に関する計画を含みますが、これらに限定されるものではありません。実際の結果は、特定のリスク要因により、将来予想に関する記述で予想された結果と大きく異なる場合があります。リスク要因には、(i) iTHC 機能を当社のベンチマークサービスに統合する能力、(ii) 世界的な経済状況や市場状況の悪化、(iii) 一般消費および IT 消費の落ち込みまたは遅延、(iv) 価格競争、業界再編、新規競合会社の仮想化市場への参入、競合会社による新製品の投入およびマーケティング施策などの競合状況 (v) お客様の新製品の開発、および新しい製品、クラウドコンピューティングなど新たなコンピューティング戦略へ移行する能力、(vi) お客様の新興技術に対する許容性 (賛同の有無)、(vii) 仮想化ソフトウェアおよびクラウド プラットフォームおよびデスクトップ コンピューティング プラットフォームの飛躍的な技術革新および市場変化、(viii) 製品開発スケジュールの変更、(ix) 当社の独自技術のマネジメント能力、(x) 当社が優秀な従業員を採用、維持できるかどうかなどの不確定要素が含まれますが、これらに限定されるものではありません。

これらの将来予想に関する記述は、現時点での予想に基づくものであり、状況、重要性、価値、および効果の不確定要素と変化、ならびに最新の報告書 Form 10-Q、Form 10-K、Form 8-K を含む米証券取引委員会に提出した文書に詳しく記載されているその他のリスクによる影響を受けることがあり、実際の結果が予想と異なる可能性があります。当社は、このリリース後にこれらの将来予想に関する記述を更新する義務を一切負いません。